

や分野を問わず、とにかく日本の植物に関係を持った人物1,157名の銘々録である。外国人も多少混ざっているが、ほとんどは日本人である。内容は氏名、その読み、生没年月日、肩書、出生地、親族、学歴、師弟、所属団体、受賞歴などの羅列の後に、経歴や業績が文章体で述べられている。この文章の部分は簡潔ながらもかなり突っ込んだ表現で、つい読まされてしまう。これに続いて著作、評伝が列記されているが、人によってはずい分詳しく、たとえば白井光太郎では64件も挙げられている。編集にあたった大場秀章氏の努力を多としたい。

このように多方面な人物を拾うのだから、当然ながら欠落も目につき、あってよい等の人物や書かれてよさそうな業績が載っていないか、生没年が不明だったりという例は少なくない。私もこの紹介文を書きながら、自分の記録とつい引き比べてしまうので、書くのにとっても時間がかかってしまった。はじめから完璧を求めるのは無理だから、気付いた利用者は随時追加訂正を入れて行けばよからう。対象は物故者なのだから毎年増える。だから出版社としては、こういうものを作った以上は、そういう訂正追加の受け皿を作っておいて、何年おきかに改訂版を作ることを考えてはどうだろう。近頃はプライバシーとやらで、こういう「個人情報」を他人が取得することがたいへん難しくなった。国立科学博物館では、毎年作って配布していた職員録を作らなくなってしまったし、転居先などを簡単には教えてくれない。私は氏名・年齢・性別・住所・電話番号のたぐいは個人を特定するマーカーであって、「個人情報」ではないと考えているのだが、都合の悪そうなことを隠したがるお役所や企業やはては個人まで、「個人情報」という単語を黄門様の印籠のように利用する。「個人情報」には公的な定義がなく、お役所の各部局が勝手な解釈で使っているということは、法制局も総務庁も認めている（日本植物分類学会ニュース No. 93 (1998)）。本書に「個人情報」を書かれた

ことに文句を付ける人が出ないとも限らない。マスコミ側は、それに対して毅然たる態度をとれるのだろうか。（金井弘夫）

□清末忠人：わたしの歩み—清末忠人研究集録。B5版。348 pp. 2005. ¥2,500. -ISBN: no number.

亡くなった友人の勧めにより作ったと前書きに書かれていて、作品49点を再編集してスタイルを統一し、読みやすくなっているのだが、ご自分がまとめたものだけに、個人的感想や意見はあとがき2頁と略年譜1頁にとどまり、もっと書いておいて下さればよかったのにとと思う。とくに1931年のお生まれから今日に至る途上の社会的背景は個人ごとに異なるので、読む人の参考になるのではないだろうか。次の機会にはお願いしたい。しかしこうしてまとめられると、植物だけのおつきあいと思っていたのに、動物や菌類まで広範囲に研究されていることを知り、認識を新たにした。連絡先は 680-0037 鳥取市元町 104 である。（金井弘夫）

□菱山忠三郎：ぐるっと日本列島野の花の旅 B5版。383 pp. 2007. ¥2000. 山と溪谷社。ISBN: 978-4-635-2301-6.

図鑑やカルチャースクールで名のある著者が、「自然の花が好きで見に行きたいが、どこへ行けばよいか」と思案する人へのガイドとして、北海道から沖縄県まで全国107箇所を、自身の体験に基づいて紹介している。紹介と言っても行ったときの出来事に沿った随筆のような柔らかい文章で、教えようとする堅苦しさは感じられない。植物名はたくさん出てくるが、それらの解説はほどほどで、RD種にだけその記号がついているのが、唯一の学的要素である。「この花を見るには」という人は、巻末の索引をたどればよい。小さな白黒写真がついているがいずれも景色で、植物やコース図は菱山夫人の手になる線画である。寝ころがって拾い読みするのに適した、楽しい本である。（金井弘夫）